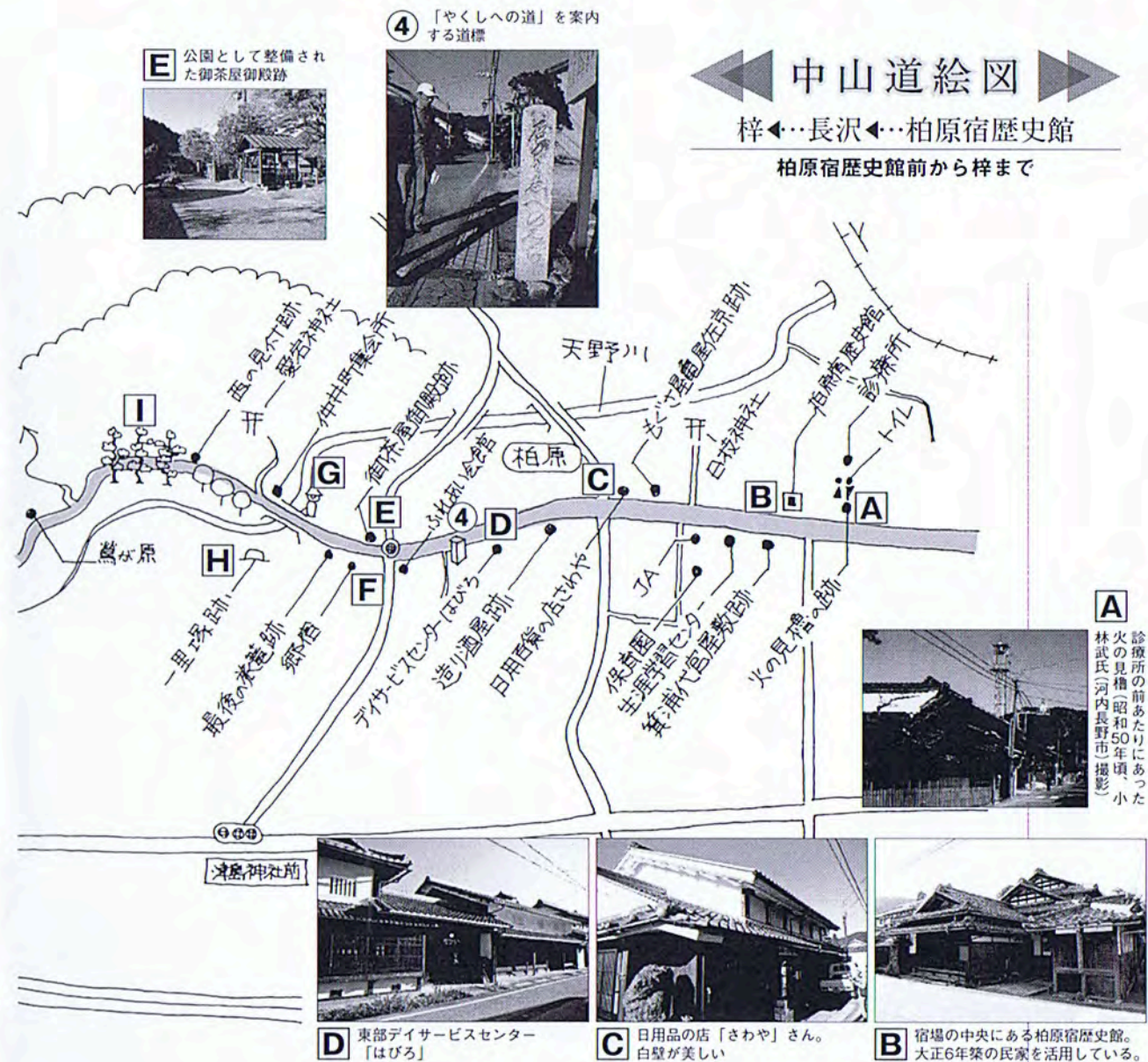
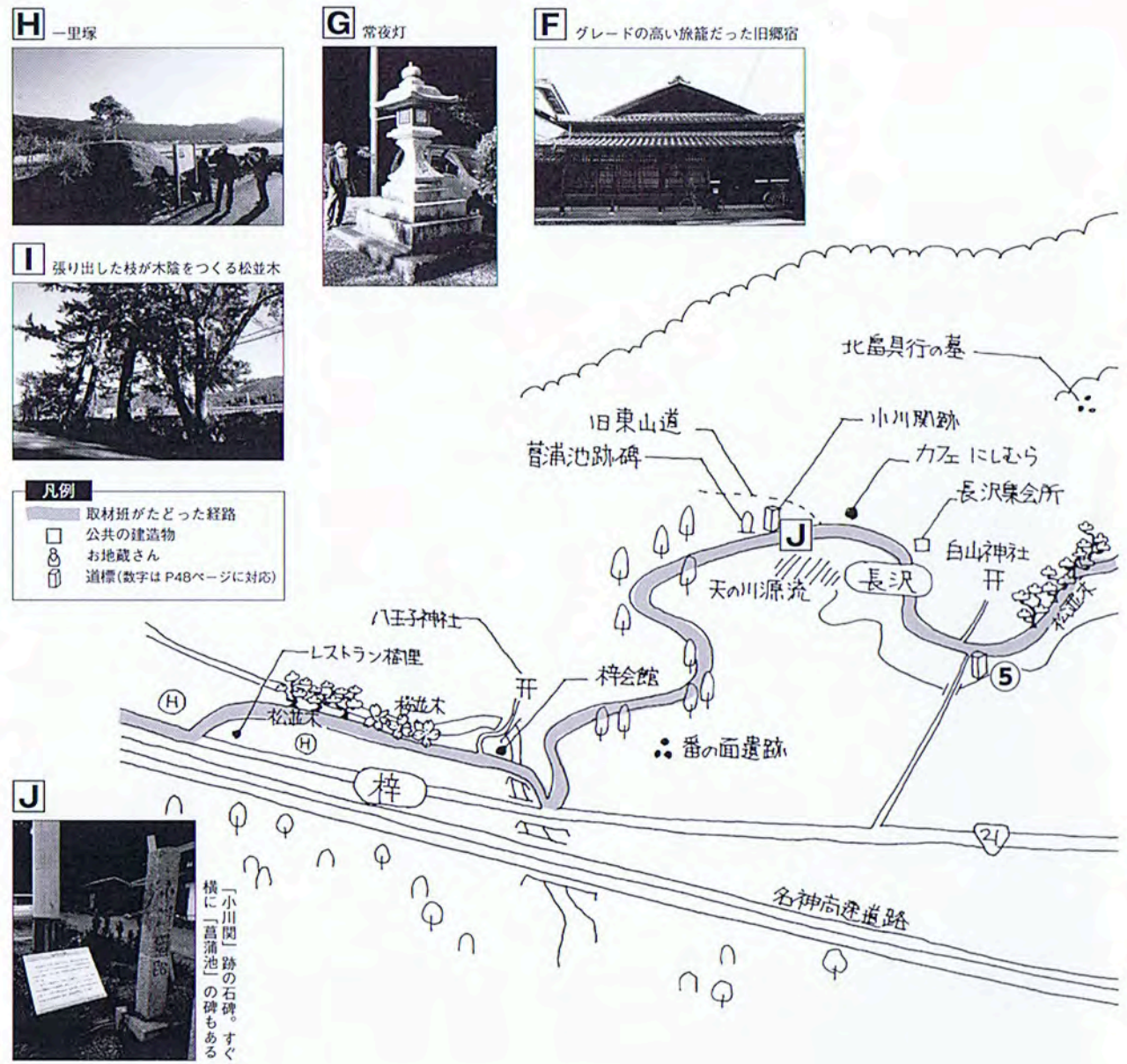


# 中山道絵図

梓 ← 長沢 ← 柏原宿歴史館  
 柏原宿歴史館前から梓まで



**一里塚跡と北畠具行の墓**  
 (1670)の勧請で、火伏の神様を祀る。この頃、柏原で大火が頻発した。  
 道の向かい側に「柏原一里塚跡」の石柱がある。かつて両側に塚があり、北塚は今の仲井町集会所の場所、南塚は川岸の辺りにあった。現在、復元された一里塚はその奥にあるが、もとは五間(9m)四方を盛り土した大規模なものだったという。

**猫居坂と北畠具行の墓**  
 西の見付を過ぎ、巨木の松並木を過ぎた辺りで、右手に入る枝道がある。古代・中世の東山道で、枝道進むと、ゆるやかな坂道になる。猫居坂と呼ばれ、峠近くに「峠地蔵」と呼ばれる石地蔵が祀られている。  
 峠地蔵の先に北畠具行の墓があり、立派な宝篋印塔が立っている。北畠具行は、後醍醐天皇側に立って討幕に参加したが、京の南にある笠置山で捕えられ、鎌倉へ護送された。護送役を務めたのが宗極道宣。清滝の柏原城に留め置いたが、幕府の使いが処刑を迫ったことから斬首に至った。

**菖蒲池跡とカフェ**  
 長沢という柏原の枝郷の南に、かつて大きな池があった。菖蒲が自生することから菖蒲池と呼ばれ、古代、歌にも詠まれ都人にも知られた名勝だった。  
 ここから街道は左手に進むが、大正時代までは「小川の坂」と呼ばれる緩やかな傾斜地を右手に通っていた。その二股のところに「カフェにしむら」がある。街道歩き休憩所として最適。奥さんの淹れるコーヒーがおいしい。

**横川の関と梓**  
 カフェにしむらの傍に「小川の関跡」の石碑が立つ。ここから西へ梓の地は、壬申の乱で激戦地となった息長横川と伝わる。「よこかわ」が転訛して「こかわ」になったとも(42ページ参照)。梓には中世、関が置かれた。「関の上」「番の面」「番野」といった小字が残る。  
 この辺り、国道沿いにはモーター群が林立するが、中山道は天野川に沿ったしっとりとした梓の集落を歩く。街道の面影のある松並木も残る対象的な風景だ。  
 (西岳人)

**柏原宿歴史館と宿場資料**  
 街道の北側に柏原宿歴史館がある。国の登録有形文化財で、江戸から昭和中期までの記録簿「萬留帳」や旅の持ち物など、宿場町の歴史を物語る貴重な資料を保存展示している。福助さん人形が大小並んだコレクションも楽しい。喫茶「柏」が併設され、地元のおばちゃん作る「やいとごん」がおすすすめ。

**古い商家と薬師道標**  
 日用品の店「さわや」は、嘉永3年(1850)築で、現存する柏原宿最古の建物。白壁に虫籠窓の飾りがユニークで美しい。街道の向かいには「東部デイサービスセンターはびろ」の看板が掛かる建物がある。元柏原銀行で、明治34年(1901)にもくさ屋だった山根家が創立。昭和18年(1943)に滋賀銀行と合併するまで営業した。  
 その先に古い道標4が立っている。南の岩ヶ谷にある明星輪寺泉明院へ導くもので、享保2年(1717)の年号が刻まれている。同寺は最澄が薬師如来像を彫って本尊とし、堂宇を建立したのが始まりという古刹だ。

**御茶屋御殿跡と郷宿**  
 広い四辻の北西の一角に公園がある。御茶屋御殿があった所で、徳川家光が上洛する際の宿泊場所として建立された。間口42間、奥行38間の大規模な建物で、近くにある真宗大谷派勝専寺の山門が、御茶屋御殿の裏門を移築したものとも伝わる。公園のなかに、御殿の井戸跡がある。  
 その先の向かい側に、黒漆喰の民家がある。郷宿だった加藤家で、平入りの町家が多い中で、妻入りの町家は珍しい。郷宿はグレードの高い旅籠で、高僧などが宿泊したという。

**一里塚跡**  
 街道は緩やかにカーブし、天野川に架かる丸山橋を渡る。橋の手前右手に、大きな常夜灯が立つ。表に「金比羅宮」、背に「文化十二年六月吉日」と刻まれている。橋を渡ると、右手に仲井町集会所があり、その横の石段を登ると、山の上に愛宕神社がある。寛文10年



# 伝説の人々が歩いた中山道



伝説やフィクションの主人公たちが、街道に点々とゆかりを残している。西へ東へ旅する人たちにとって、空想の物語と同じ道をたどり痕跡を見つけるのは楽しみのひとつだっただろう。街道は虚構と現実が行き交う道でもあった。

## 岐阜県関ヶ原町

### 一条良基

連歌を大成した風流人

特に変哲のない無舗装の小さな坂だが、「車返しの坂」と呼ばれ、坂の上に「車返地蔵尊」が祀られた道がある(9ページ)。坂の名の由来は、南北朝時代の歌人で公家の一条良基(1320~1388)のエピソードに由来する。

この一帯は、律令制の整備に伴って不破の関が設けられた場所。古代三関のひとつで日本の東西の境界地とされた。しかし1世紀もたたぬうちに関の機能は停止し、荒廃が進んだと伝わる。そんななか、歌人らの間ではさびれてしまった不破の関をお題にすることが流行ったようだ。良基もまた流行りに乗った一人。「関屋(関所の番小屋)の庇からもれる月光の風情を眺めるのがおもしろい」と聞き、実際に向かうことにしたのだ。ところが関屋の主は大慌て。見苦しいのでと屋根を修理してしまふのだが、坂のあたりでそれを知った良基は興奮してそそくさと都へ引き返してしまつた……という話。要衝としての関ヶ原の移り変わりを垣間見ることがもできる。



▶車返しの坂(関ヶ原町今須)

## 米原市 柏原

### 照手姫

変わり果てた夫の病平癒を祈願

中世の口承芸能に「説経節」がある。宗教性と娯楽性を兼ねた語り物で「小栗判官・照手姫」の物語もそのひとつだ。地獄に落ちたが閻魔様の情けで現世に戻ってきた小栗判官。しかし目耳口が不自由になり、餓鬼に似た姿へ化してしまふ。紆余曲折を経て紀伊熊野本宮の湯で湯治して全快する……のが大まかな筋書だ。

照手姫は小栗の妻。亡くなったはずの夫が現世に戻っているとはつゆ知らず、夫の供養にとその餓鬼阿弥を載せた台車を曳き、熊野をめざす。その道中の柏原で、照手は蘇生寺の地蔵尊に自分の笠を脱ぎ掛け、餓鬼阿弥の病氣平癒を祈願した。それが照手姫笠地蔵だ(13ページ)。寺はその後廃された。

近くの長比城趾に向かう道沿いに白清水と名付けられた湧水があり、照手が化粧の白粉を谷の水に流したことに由来する。白清水のある谷は狂女谷と呼ばれた。美しかった照手が周囲の目を反らすため、狂女のようにふるまっていたことになむ。



▶照手姫笠地蔵(米原市柏原)

## 米原市 井

### ヤマトタケルノミコト

居醒の清水で生き返る

日本古代史上の伝説的英雄が日本武尊(ヤマトタケルノミコト)。幼少から武芸に秀でた上に怪力無双で知られた。父の命で、朝廷に従わない九州、中国地方に続き東国を平定した。

負け知らずのヤマトタケルが致命的なダメージを負った地が、伊吹山だった。伊吹の荒ぶる神の征伐の際、山中で出会ったのが白い猪。山の神の使者だと思ひ、神を倒した後で狩ろうと、猪を侮る。が、この白い猪こそが伊吹山の神で、怒った神は大きな電を砲撃しヤマトタケルは重症を負う。正気を失いながらも下山、湧き出る清水のもので休み、ようやく意識を回復させる。

この話にちなみ「居醒の清水」と名付けられたのが、加茂神社の湧水。そばにはヤマトタケルが休んだという腰掛石もある(19ページ)。

しかし伊吹山でのダメージは大きくその後のヤマトタケルは弱り、大和に戻れず力尽きる。故郷への凱旋も父に認められることもなく終わってしまふ、悲劇の英雄なのである。



▶日本武尊像(米原市井)

## 米原市 番

### 番場の忠太郎

人気戯曲『暎の母』の主人公

長谷川伸の戯曲『暎の母』は、アウトローを描いた股旅物。主人公・番場忠太郎は、生き別れた母を求めて旅を続けついに再会が叶うも、母から息子であることを否定され、またさすらい旅に出るといふ筋立て。

忠太郎が生まれたのは、番場宿の旅籠。番場に設定については、「滋賀夕刊」平成19年2月28日号に掲載されたコラム「忠太郎の命名と由来」(同夕刊社主・故押谷盛利氏執筆)に詳しい。コラムによると、かけ出しの時代の長谷川氏が中山道を旅したとき、蓮華寺の当時の和尚に親切なもてなしを受けた嬉しさにちなむのがひとつ。また、地蔵尊の建立・開眼法要(昭和33年)を取材した押谷さんが、来賓の同氏に由来を直接尋ねたところ「(前略)日本国民から愛読されるために地名と姓を一体化し、どこを主人公の生誕地にするか。宿場でなければならぬから地図の上で(中略)日本の中央部分を眺めたとき、ひらめく如く、番場に目が射すくまれた(後略)」というところらしい(26ページ)。



▶忠太郎地蔵(米原市番場)

## 彦根市 小野町

### 小野小町

生誕地に祀られる小町地蔵

平安時代、小野好実という地方官が、都から出羽国へ赴任する途中の宿のこと。この宿にいた赤ちゃんがあまりにかわいく、好実は電撃的に養女に迎えた。出羽で育った養女はその後、歌人として、絶世の美女として後世に語り継がれることとなった。養女の名は小町。

「花の色は 移りにけりないたづらに 我が身世にふる ながめせし間に」などを遺した小野小町の出生地説は全国に多くある。彦根市鳥居本町の南隣、小野町にも生誕説があり、右のように伝わ

町内の街道脇に小町塚と呼ばれる小さな祠があり、地蔵尊が安置されている(31ページ)。15世紀後半頃につくられたと伝わる「小町地蔵」で、中山道沿いの歴史文化風俗を紹介する江戸時代の書物「木曾路名所図会」でも触れられている。

小野は、東山道時代、宿場の機能を果たしていたが、彦根城の築城にともなうて鳥居本に宿場が移されている。



▶小町塚(彦根市小野町)